

令和4年度 恵那北小学校だより 11月20日号

げんきたっ子



みんながってみんないい

校長 市川 伸美

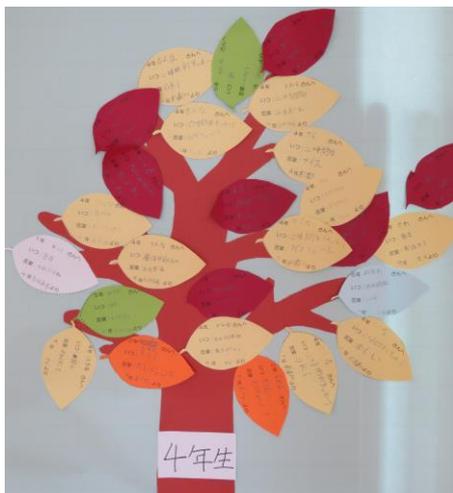
朝晩寒くなり、学校周辺の木々も、きれいな葉を落としています。枝をよく見ると、次の芽が出かけており、気温の差や日照時間を感じ取って毎年新しい葉や花を見せてくれる植物には、感心してしまいます。

詩人金子みすゞさんの作品に、「わたしと 小鳥と 鈴と」という詩があります。3年生の国語の教科書にも載っています。詩の終わりには「鈴と、小鳥と、それからわたし、みんながって、みんないい。」とあります。それぞれの個性を認めることのよさが伝わります。



学校の子供たちと接していると、どの子にも個性があり、楽しくなります。見た目だけでなく、それぞれに得意なことも苦手なこともあります。何かあったとき、切り替える速さも違いますし、自分の思いの伝え方も違います。“みんながってみんないい”子供たちです。

12月4日から12月10日までの1週間は、全国で「人権週間」の取り組みがあります。人権とは、「誰もが生まれながらにして持っている、人間として幸せに生きていくための権利」です。



子供たちは日々仲良く過ごしていますが、ときには友達の間で言葉や態度に傷つくこともあります。互いの個性を認め、笑顔で幸せに過ごせるようにと、代表委員会では、人権週間に先立って、「あったかい言葉でスマイルキャンペーン」として、友達にあったかいことばをかける運動を始めました。あったかい言葉をかけたら、児童玄関に用意された葉っぱに書いて貼っていきます。今では掲示してある木に、葉っぱがいっぱいになっています。

1学期に、あったかいことばがけ運動を各家庭で行いましたが、家庭でも、地域でも、あったかいことばの輪が広がり、互いを認め合いながら周りの人を大切にできる“げんきたっ子”であってほしいと願います。

